

令和8年度第1回茅ヶ崎市景観まちづくり審議会会議録

報告	<p>(1) 景観計画の期末評価の進め方について</p> <p>(2) 2025年度茅ヶ崎市景観計画年次報告書について</p> <p>(3) その他</p>
日時	令和8年4月22日(水) 14時30分～15時40分
場所	茅ヶ崎市役所分庁舎5階 コミュニティーホール B会議室
出席者氏名	<p>(委員)</p> <p>高橋委員、清水委員、三友委員、神保委員</p> <p>(WEB会議により出席) 上野委員</p> <p>(欠席委員) 荒井委員、田邊委員</p> <p>(事務局)</p> <p>【都市部】深瀬部長</p> <p>【景観みどり課】高山課長、須賀主幹、二階堂副主査、鶴岡主事、大友主事</p>
会議資料	<p>次第</p> <p>報告(1)</p> <p>資料1-1 評価の進め方について</p> <p>資料1-2 茅ヶ崎市景観計画期末評価(案)に対する意見記入シート</p> <p>資料1-3 茅ヶ崎景観アンケート</p> <p>資料1-4 茅ヶ崎市景観計画前期報告書</p> <p>資料1-5 景観計画評価・改定工程表</p> <p>報告(2)</p> <p>資料2 2025年度茅ヶ崎市景観計画年次報告書</p>
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	

傍聴者数 (公開した場合のみ)	0名
------------------------	----

(会議の概要)

1. 開会

事務局から、会議の開会にあたり以下のとおり報告があった。

- ・所属委員の過半数の出席を充足しているため、茅ヶ崎市景観まちづくり審議会規則第6条第2項に基づき、本会議は成立していること。
- ・本会議の内容は公開となり、会議録作成及び公表のため会議内容を記録していること。

2. 報告

(1) 景観計画の期末評価の進め方について

【事務局からの説明】

事務局から、景観計画の期末評価の進め方について説明し、委員による意見及び質疑応答が行われた。

○委員 △事務局

【意見・質疑応答】

- 茅ヶ崎市現景観計画の後、次期計画も将来に向けてさらに実態に合うように進めていただきたい。過ごし方調査の総括評価において具体的にどのような評価を行うか、決まっていたら教えていただきたい。
- △ これまで積み上げてきた過ごし方調査の結果がばらばらに存在しているので、一度きちんとまとめて分析する必要があるかと思い、それを活かして総括評価を行おうと考えている。
- これまで蓄積してきた結果について全体を通してまとめて分析することは意義がある。茅ヶ崎市に様々な良い公共空間がある中で空間同士の比較だけでなく、複数年に

渡って調査している場所は過去との比較ができる。コロナ禍前後でも違いがあると思うので、その点を含めて分析ができると良いと思う。その結果が公共施設の新築や公共空間の再整備の際にも役立つと思う。それをまた次期景観計画や具体的なプロジェクトにぜひ生かしていただきたい。

- アンケートだが、過去にも同じような事例があったとしたら、それと比較するのもおもしろい。あと、アンケートの中で景観に関する用語の解説があると、興味を持ってくれた人に対して丁寧な対応になると思われる。

アンケートの間3の中で年数について「関わり」という言葉があるが、茅ヶ崎市と様々な関わり方をしている人々がいる中で、この言葉にはどのような意味があるのか。

- 新しく転入してきた人たち、以前より住んでいる人たち、そういった多様な主体の中ではどんな風にまちが捉えられているのか、様々なニーズに合わせたまちづくり、という中にこれからの景観づくりの材料があって、それらがまた景観づくりや茅ヶ崎らしさのPRにつながることを望ましい。

- △ 景観の満足度というような、景観全体に関わるようなアンケートは初めてなので、過去のアンケートと内容が違うため単純に比較できる場所もあればできない場所もあるのではないかと考えている。

補足として、過去に景観に特化したアンケートというものは確かにこれまで行っていないが、市として市民アンケートというものは数年に一度行っている。前回の景観計画の報告書、評価の部分ではそういったものを基に分析している。設問自体が同じものではないので完全な比較とはならないかもしれないが、令和6年度の回答結果で景観に関する項目が一つだけあり、景観の重要度と満足度といったもので評価としては、ほぼ中間であった。その部分は比較できる可能性がある。

- △ 用語の解説については、他市のアンケートを見る限りでは、注力はされていないようである。他市では、景観の学習を行ったうえでアンケートを行っているところもある中で、本市は解説をどこまでやっていくかというところは今後考えていかなければならない点である。

- △ 「関わり」については、問1で聞いているところではあるが、本市のことを「古くから知っている」、「最近関わっている」などということも加味してこういった言葉を選んでいる。

- 用語の解説に関して、近年では多くの自治体の景観計画で用語の解説をつけている。市民の方に分かりやすい景観計画であるためにも是非検討していただきたい。
- 景観審議会委員になってから景観ポイントを知って見ていく中では、そういったところは意識して守られているので、あまり変化は感じられない。ただ、それ以外の市内の様子を見てみると本当に変わってきている。例えば大きな敷地で緑にあふれていた住宅が取り壊され、小さな住宅になり、あまり緑が植えられる状況でなくなったり、茅ヶ崎らしさがなくなっているように感じている。また、そういったことの懸念をどこに訴えていけばいいのかということも疑問である。景観計画評価という部分にあっては、そのようなことはあまり反映されていないように思う。ビューポイントを大事にすることはもちろん重要だが、市内のポイント以外の景観についても配慮が欲しいと思っている。
- △ 宅地分譲を止めていくというような具体性を持つものは確かに景観計画には載っておらず、計画に落とし込むこと自体は難しいと思われる。それは都市計画の部分であり、これから都市マスタープランや立地適正化計画を作っていくことになると思うので、上位計画の方針等も鑑みて景観計画に今後そういったことを反映していくことになるのかなと思う。緑の基本計画もあるので、連携をとってどうやったら守ることができるか考えていく必要がある。

景観計画において沿道緑化については、かねてから重要視しており、景観形成基準に則ったチェック項目でもあり、業者に対して緑化を訴えるなど積極的なアピールも行っているところである。
- 都市計画上の状況も理解できるが、せっかく景観計画も評価の段階であるので、今後の景観向上につながるよう一緒に考えていけたらと思っている。
- △ お伝えしたように、都市マスタープラン、緑の基本計画、景観計画というのがこれから一緒に改定作業に進んでいく。景観みどり課では緑の基本計画も所管しており、緑化についてはもちろん注力しなければならないところで、数字の上でも重々承知はしている。もともと別荘文化のある地域として、宅地分譲されていくという中で、「一軒の家からはじまる景観まちづくり」という冊子を作成し周知啓発を図っている。宅地開発されるときは緑化と既存樹木の保存についてのお願い、またさらなる緑化についてもお願いしているところ。ご指摘いただいた点については改めて課題として、こ

れから進めていく景観計画の中でも力を入れて改定していきたいと思っている。

- 評価事項③の定点観測と評価事項⑥の景観の変化の比較は同じものに見えるが、どのような違いがあるのか。
- △ 評価事項③は景観ポイントや眺望点についての評価になり、評価事項⑥は景観まちづくりアドバイザーを受けた場所や特別景観まちづくり地区で事業が行われた場所について評価するものとなっており評価する場所が違うため分けている。
- 事業評価をやるときによく言われるのが、結果と成果を分けて考えると良いということ。この調査の中の結果にあたる部分と成果にあたる部分は分けて調査に臨んだ方が良いと思った。評価事項の①～⑥の項目の中にこれはやったこととして、結果でこうなった、それを踏まえて例えば評価事項④の「過ごし方調査」は成果に近いものではないかなと思う。要は景観計画を作って、こういうことをやっていったら、例えば市民の過ごし方が変わったとか、そういったことをきちんと把握するという構造をもう少し明快にしたほうが良いと思った。それを追加する、深掘りするという意味では先ほど意見があったアンケート調査などで「景観が守れたり、あるいは形成されてきたことによって市民の行動変化が起こった」とか、そのようなことを把握できる項目があると「景観がこうなったからより、市民の生活がこういうふうに変わって行って、だから景観は守るものだよ・建設的なんだよ」っていうきちんと説明できる資料になることができると思う。
- △ アンケート等について成果と結果について分けることができるよう検討してみる。
- 期末評価は節目であると同時に、次の取り組みへの布石の意味もある。過去の結果を活かし、いろいろとバラバラになっている情報を俯瞰してまとめて一つのストーリーにする、その中に市民が関心を持てるような話題を作ってほしいと思っている。「この分析のあのグラフが新聞に載ったらバズるかも…」というPRのイメージを思い描きながら、準備を進めていってもらえればと思っている。
- アンケートも用語説明もひとつのPRのツールである。ブランディングの言葉ではタッチポイントと言うが、一般の市民が茅ヶ崎市の景観まちづくりに触れるひとつの接点だと思って、そこの訴求力は大事にしてほしい。WEBアンケートは紙のアンケートではできないことができるという特徴があるので用語説明のリンクを張るだとか、

またリンクにすると回答の効率が下がるということであれば説明がポップアップで出てくるとか、やり方はいくらでもある。多少設問が長くなってもWEBアンケートの流れがしっかりしていればリズムで答えられるので、用語説明がPRの一環となる点も意識して考えてもらえればと思う。

- 本計画は、茅ヶ崎市としての取り組みを積み上げてきた上での計画でもあるので、今までやってきたことの結果、生み出された成果は分かりやすくしたいし、計画に既に書いてある内容でちょっと効果・インパクトが薄れてきていると思った場合には、打ち出し方を切り替えた語り直しも必要である。また計画論としては上位計画で書かれていないことを描く難しさはあるが、一方で、景観形成の担い手である市民の立場で見たときに住宅地の景観について何も触れないのも不自然じゃないかという部分もある。上位計画に記載のない内容についても市民の感覚をカバーしていくことが茅ヶ崎市景観計画の特徴・先進性の要素であることを意識してほしい。
- 審議会委員に負担を増やすことになるが、審議会委員もそれぞれの立場で自分たちの専門分野で情報を集めて参加しているので、そこを茅ヶ崎市の先進性の部分に組み込んでもらえるように、もっと委員を活用していいのではないかと考えている。これから各委員が評価シートを記入していく際に、集約化は難しいかもしれないが、それぞれの専門の立場から「こういうことが必要なのではないか」とか「こういう他自治体の事例があるから見ておいた方がいいのではないか」とか、そういう意見も書き込めるようにしてはどうか。われわれ審議員の立場や知見を、茅ヶ崎市の景観計画の先進性を育てるために活かす工夫を検討してほしい。
- △ 意見を組み込めるように修正しようと思う。ありがとうございました

(2) 2025年度茅ヶ崎市景観計画年次報告書について

【事務局からの説明】

事務局から、2025年度茅ヶ崎市景観計画年次報告書について説明し、委員による意見及び質疑応答が行われた。

○委員 △事務局

【意見・質疑応答】

- 「景観まちづくりの推進」において、環境事業センターや道の駅などの写真は、どのような基準で選定し記載したのか。
- △ 全方面から建物全体が確認できる写真を選定した。
- 景観まちづくり審議会において審議したものを記載しているので、審議された部分がどのように計画され、結果が反映されたのか報告が必要であると考え、加えて掲載していただきたい。
- 写真について、それぞれが景観計画のどの部分に繋がってくるのかを意識させるコメント、解説等があると良いと思う。
- Instagram について、フォロワー数やリール動画の再生数などを記載し、どの程度増減があるのか把握できると良いと思う。
- 報告書の構成について、景観においてどのような変化があったのか、何をポイントに説明したいのか、部分的に解説があると理解が深まりやすい。まず写真が感覚に訴求し、解説やコメントによって理解を深めるといった構成を大事にしてほしい。

3. その他

【事務局より今後の審議会予定の説明】

- ・次回令和8年度第2回の審議会は7月、8月頃を予定。現景観計画の評価方法について進めていく。また、公共施設について動きがあれば報告する。